

第34回福岡アジア文化賞

大賞

真鍋 大度

日本

アーティスト、プログラマー、DJ

ライゾマティクス代表、STUDIO DAITO MANABE代表

1976年7月18日生(47歳)

経歴

- 1976 東京都生まれ
2000 東京理科大学理学部学士号(数学)
2003 ダートマス大学大学院音楽学部交換留学
2004 岐阜県立情報科学芸術アカデミー(IAMAS) DSP コース修了
2004-07 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科非常勤講師
2005-07 東京工芸大学非常勤講師
2006 株式会社ライゾマティクス設立
2010-11 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科非常勤講師
2012-13 九州大学大学院芸術工学府非常勤講師
2017- 東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師
2018 ブレーメン芸術大学特任教授
2018-22 慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授
2020 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科非常勤講師
2022 Studio Daito Manabe 設立

その他、マサチューセッツ工科大学 Media Lab, ニューヨーク大学 ITP, パーソンズ美術大学, 中国伝媒大学, 東京大学, Fabrica, Meet the Media Guru, TEDxHongik, FITC, Kikk Festival, CLICK Festival, Eyeo Festival, Mutek, Resonate Festival, STRP Festival, Gray Area, Sonar+D, ArsElectronica, Today's Art, Scopitone Festival, Multiplicidade Festival, Transmediale, STUDIO for Creative Inquiry, School For Poetic Computation, HKDI Master Lecture Series 等のレクチャー、ゲスト講師を務める。

主な受賞歴 (2014年以降)

- 2014 第61回カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバルにてチタニウム&インテグレート部門グランプリほか8部門15の賞を受賞(『Sound of Honda/Ayrton Senna 1989』)
第18回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞(『Sensing Streams-Invisible, Inaudible』)
One Show 2014 金賞等(『Sound of Honda/Ayrton Senna 1989』)
D&AD Awards イエローペンシル, ブラックペンシル(『Sound of Honda/Ayrton Senna 1989』)
- 2015 第55回ACC CMフェスティバル総務大臣賞ACCグランプリ(Perfume Live 『SXSW 2015』)
グッドデザイン賞(Perfume Live 『SXSW 2015』)
- 2016 アルスエレクトロニカフェスティバル コンピューターアニメーション/フィルム/VFX部門 Award of Distinction (Nosaj Thing 『Cold Stares ft. Chance The Rapper + The O'My's』)
- 2018 デジタルコンテンツEXPO ASIAGRAPH 2018 匠賞
CODE AWARD グランプリ(『FUTURE-EXPERIMENT VOL.01 距離をなくせ』)
カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル デザイン部門 デジタルインスタレーション&イベント金賞(『OBSESSION』)
アドフェスト フィルム部門 インターネットフィルム金賞(『OBSESSION』)
Spikes Asia デジタルクラフト部門 デジタルクラフトにおける技術的達成部門グランプリ(『OBSESSION』)

- フィルムクラフト部門 演出部門 ゴールドスパイク (『OBSESSION』)
Tokyo Art Directors Clubs (ADC)賞 (『OBSESSION』)
- 2019 第22回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞 (『discrete figures』)
エンターテインメント部門優秀賞 (Perfume×Technology presents 『Reframe』)
- 2020 アルスエレクトロニカフェスティバル コンピューターアニメーション部門名誉賞
(Squarepusher 『Terminal Slam』)
- 2021 STARTS Prize 名誉賞 (『border 2021』)
- 2022 アルスエレクトロニカフェスティバルインタラクティブアート部門名誉賞 (『morphcore』)
- 2023 アルスエレクトロニカフェスティバルニューアニメーション部門名誉賞 (『multiplex』)

主な作品等

- ・『electric stimulus to face - test3』 YouTube, 2008.
- ・『Perfume Global Site』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング) ウェブサイト, 2012.
- ・『Sound of Honda / Ayrton Senna 1989』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング) , 2013.
- ・坂本龍一×真鍋大度『Sensing Streams』 札幌,東京,北京,アムステルダム,香港等,2014-22/東京 (ICC Version) 2023-24.
- ・『Perfume Live at SXSW 2015』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター,プログラミング) , 2015.
- ・Nosaj Thing『Cold Stares ft. Chance The Rapper + The O'My's』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター) ,ミュージックビデオ,2015.
- ・リオ2016 オリンピック閉会式『東京2020 フラッグハンドオーバーセレモニー』 (テクニカルディレクション, プロジェクションマッピング&AR 映像演出) リオ, 2016.
- ・DOUBLE A×OK GO『OBSESSION』 (テクニカルディレクション,ソフトウェアデザイン,プログラミング) , 2017.
- ・『COSMOS at Bluedot Festival』 マンチェスター, 2017.
- ・docomo×Perfume『FUTURE-EXPERIMENT VOL.01 距離をなくせ。』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター) , 2018.
- ・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『discrete figures』 (芸術監督等) モントリオール,ニューヨーク,サンフランシスコ,東京,大阪,リエージュ,バルセロナ,マドリード, 2018-22.
- ・真鍋大度×神谷之康研究室『dissonant imaginary』 鹿児島,スペイン,宮城,愛知,メキシコ,東京,パリ,上海,北京,マドリード, 2018-22.
- ・Perfume×Technology presents『Reframe』 (クリエイティブ&テクニカルディレクター, 音響) , 2019.
- ・Squarepusher『Terminal Slam』 (監督,ソフトウェア開発等) ミュージックビデオ, 2020.
- ・『morphcore』 (レクチャーパフォーマンス) バルセロナ,ボゴタ,東京,リオデジャネイロ,カイロ,北京,ソウル, リンツ, イスラエル, クランボーン, メルボルン, 2020-23.
- ・DJ クラッシュ×真鍋大度『Connected World』 (ライブ) オンライン, 2020.
- ・『rhizomatiks_multiplex』 (ディレクション、コンセプト,ミュージック) 東京, 2021 / 深圳, 2023-24.
- ・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『border 2021』 (クリエイティブ&テクニカルディレクション,ソフトウェア設計) 東京, 2021.
- ・真鍋大度×ELEVENPLAY『tone at New Vision Arts Festival』 オンライン, 2021.
- ・『坂本龍一: Playing the Piano 2022』 (演出) オンライン, 2022.
- ・真鍋大度個展『EXPERIMENT』 山梨, 2023.
- ・Arca『Incendio』 (ミュージックビデオゲストアーティスト、エンジニア参加) 2023.
- ・Nosaj Thing×真鍋大度『Contunia Live』 (出演) バンコク, バルセロナ, 2023.
- ・ELEVENPLAY×Rhizomatiks『Syn:身体感覚の新たな地平』 (アーティストックディレクション,作曲)東京, 2023.
- ・『坂本龍一トリビュート展: 音楽/アート/メディア』 (アーティスト,共同キュレーション) 東京, 2023-24.
- ・真鍋大度×ELEVENPLAY『+1+1+1+』 (アーティストックディレクション,作曲) 富山, 2024.

主な著作

- ・「Things on Stage—パフォーマンス作品における開発と実践—」『情報処理学会デジタルプラクティス Vol.8 No.4』 (共著) , 2017.
- ・「ステージパフォーマンスにおけるボリュームメトリックデータの活用」『フォトグラメトリ(その2)60 巻 4号』 (共著) , 2021.